

新・群馬県総合計画策定懇談会（第1回）議事概要

1 日時

令和元年11月15日（金） 15時30分～17時30分

2 場所

群馬県庁6階 秘書課会議室

3 出席者数

策定懇談会構成員12名、県関係者約25名

4 議題

- ・ 自己紹介
- ・ 10年後、20年後の群馬県について

5 構成員の主な意見

(10年後、20年後の群馬県について)

- ・ 地域の発展には、スタートアップが生まれることが大きい。
- ・ 今後はソフトの時代であり、デジタル、クリエイティブ産業の集積が必要ではないか。
- ・ 群馬を盛り上げるには、県庁所在地の前橋の魅力を磨いた方がよい。
- ・ テクノロジーを使い、インフラ費用を安く抑えることができる未来が見えてきている。
- ・ 群馬から日本の教育の改革を起こし、来てくれる学生を増やすことができればよい。
- ・ 発展が難しい時代では、人や自然との「持続共存」がテーマになる。
- ・ スタートアップやデジタルは、データが一番の原動力になる。データがあるところにはデータサイエンティストやエンジニアなど様々な人材が集まる。
- ・ 中学卒業とともに地域外に出てしまうと、地域への愛着がなくなってしまう。
- ・ 国でも県でもなく街に魅力があるか否かでとても変わる。
- ・ スタートアップにしても、教育にしても、これからは行政機関がデジタルライズされていることが非常に重要になってくる。
- ・ イノベーションもスタートアップも、それをやっていない人が視認するかが重要である。
- ・ 豊かな生活を送る人の姿が視界に飛び込んでくるような環境を整備することが重要である。
- ・ 一般の市民が、街のチャレンジや変化を実感できるような環境を作ることが重要だと考えている。
- ・ 様々な深い見分を持っている人々が知見の交換だけにとどまらない交流をすることで、新しいものを生み出していくような場をつくっていかなければならない。
- ・ 20年間で、学びを通して生きることや、社会システムは横断的に変わる。結果として、住んでいる人や世界中の人が繋がるような、想像の遙か上を行く面白い社会ができてくると思う。
- ・ 平均寿命と健康寿命が乖離するほど、高齢化を迎える県民医療費が増大していくことが心配される。できるだけ若いうちから健康の重要性を啓蒙することが必要である。
- ・ パーソナルヘルスレポートや購買情報などのデータを企業にオープンにして活用させることで、新たなビジネスが生まれる。
- ・ 2040年は地域循環共生圏、SDGsがポイントの社会になるだろう。

- 地域の社会的課題を一緒に解決していくインクルーシブデザイン、みんなが当事者になってデザインし、起業していくサロンや公民館のような場を施策として作っていくのはいかがか。
- タイはすでにプログラミングが必修であり、日本はアジアで最も遅れている。文系学生でもプログラミング言語などを理解できるくらいの力は持っていてほしい。
- 県内に進学した学生が就職したいと思える企業がもっと増えて、学生の半分くらいは県内に就職できると、県内大学の価値が高まる。
- 小さい子どもだけでなく、専門学校や大学の教育にも他にない群馬県独自のイノベーションを起こせば、東京で働いている人も「大人を育てるなら群馬県」というモチベーションになると思う。
- 群馬と東京が半々で活動しているが、こういうスタイルで1つの職業を全うしている人がいてもよいのでは。
- 群馬の人は動画の影響力に気付いていない印象がある。企業のPRにも動画をもっと使ってもらいたいし、地元でキャスティングも撮影もできるように映像制作の需要も高まってほしい。
- 幸福度という意味では、人は昇給してお金を得ても変わらない。人間の成長こそが幸せだと思っている。
- アクティブラーニングで学んだ学生たちが教師になれば、教育が変わってくるのではないかと期待している。
- 今の教育体制を非常に危惧している。日本はアウトドアのような社会教育が足りない。群馬県は山、森、湖があり、社会教育を行う場づくりを進めていってはどうか。
- 観光について、海外の知り合いが日本に来たとき、我々の日常を味わえるホームステイがとても好評だった。京都も北海道もまわったが、一番印象的だったのは群馬だと言っていた。